# 平成 29 年度 あべの翔学高等学校 学校評価

### I めざす学校像

1 人徳を経とし実務を緯とする

人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を 校訓とする。

2 学力だけでなく「こころ」の面での成長を大切にし、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をとおして社会生活に適切に対応し、活躍できる教育活動を実践する。

### Ⅱ 中期的目標

1 学習指導

十分に基礎学力が備わっているとは言えない生徒が散見される。基礎学力の定着を図る。

2 進路指導

生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。

3 生徒指導

基本的生活習慣の習得

4 生徒会・クラブ活動への積極的参加

生徒会(学校行事)、課外活動を通じ。勉学との両立を図りながら、秩序・リーダーシップ・協調性等のチームワークや人間 関係の育成を図る。

5 保護者との一体教育

保護者とのコミュニケーションを一層密にし、適切な学習指導、進路指導、生徒指導等を行う。

6 安全管理

災害意識を高め、火災のみならず、地震・津波などの緊急時対策を図る。

また、救急救命の知識向上に努める。

## Ⅲ 本年度の取組内容及び自己評価

- 11 / X 9 / X 11 / X 0   C   C   C   C   C   C   C   C   C					
中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
1	(1)基礎学力の定	a 主要 3 教科(英語、国語、数	a 学び直し授業回数 10 回/年	1 学期授業で学び直し学習を行	
学習	着	学)での中学基礎学力の学び		い、保護者においても一定の評価	
学習指導		直し授業実施		を頂いた。年間 35 時間中 10 回の	
		b 学期初の習熟度調査による	b 学期最初の実力テストから期	目標値は達成できた。	
		習熟度別個別教育実施	末実力テストへの成績 20%向	この結果、1 学期末考査から学年	
			上を目標にあげる。	末考査の点数伸び率は、数学と英	
				語演習においては 12%相当向上	
				したが、国語及びコミュニケーシ	
				ョン英語については向上は得られ	
				なかった。	
				個人別に弱い分野を見定めて、学	
				習指導出来るよう体系的に実施し	
				てゆく。	

-	(1) ) 任 四夕 十八 ) 岩 上1 / 次:	光吹み道部木の日地間が	`ALIV 不肯部士 #17日	TH 20 KEL(TH 20 K 2 H Z
2 進	(1)進路指導対策	a 進路希望調査の早期開始、	a 進路希望調査期限	平成 29 年度生(平成 30 年 3 月卒
進路指導	の早期実施	早期対策	1ヶ月前倒(7月→6月)	業)の進路結果は以下のとおりで
導		b 三者懇談会の早期実施、回	b 三者懇談会年 4 回実施	ある。
		数見直し		進路先 人数(構成比) [対前年]
				大学 73名(34%)[+12%]
				短大・専門 81 名(37%) [△10%]
				進学未定 19名(9%)[+2%]
				就職他 43名(20%)[△4%]
				合計 216名(100%)
				前年に比べ 4 年制大学進学者が
				12%増加している。今後とも4年
				制大学進学者数を増やしてゆくこ
				とを目的に、進路指導の早期開始
				を継続して実施してゆく。
	(2)関西圏私立大	a 有名私立大学の学部・学科	a参加大学数 50 校以上	説明会参加校は、4年制36校、以
	学への知名度向	説明会	(4 年制 36 校、以外 12 校)	外 12 校以上であった。
	上			   指定校推薦枠大学 68 校、短期大学
				   38 校、専門学校 125 校を確保。  
3	(1)基本的生活指	a 遅刻指導強化期間の設定	a 遅刻回数の削減に努める	遅刻回数の学年別推移は以下のと
	導の習得	327414 4 3274777114 × BX/C	10回/人年以下を目標とす	おりである。(回/人年)
生徒指導	3 2 113		3.	[ ]が平成 29 年度実績
- 導		b 服装、身嗜み指導の徹底	b 通学路立ち番指導 100%	1 年次 2 年次 3 年次
		c人権教育の徹底	c 人権教育回数 4回	3年 20.9 14.1 [12.9]
		C 八催软 自 77 取应	C 八催秋月回数 4 回	2年 15.0 [15.0] —
				1年 [11.5]
				·
				各学年とも概ね前年度に比較して
				遅刻回数は減少しているが、目標
				である 10 回/人年以下には至って
				いない。特に2年生において15.0
				回と前年実績に対して減少してお
				らず、高校生活 2 年目の中弛みが
				顕著となっている。
				今後は、新1・2年生への躾教育を
				徹底し、高校生活を充実したもの
				とするよう配慮する。
				人権教育については目標を達成で
				きていると思われるが、教員の目
				が届かない休憩時間でのいじめ等
				の防止に努めることとする。

4 生 住		///		Sales Sales	
田	4	(1)クラブ活動の活	a 男子生徒が参加できるクラブ	a クラブ数 4 部増加	運動系クラブでは、軟式野球部が
田	徒	性化	数の増加	運動部の男子全員参加	創部2年目にして近畿大会に初出
田	会・ク				場することができました。(平成30
田	ラブ		b クラブ参加率の向上	b クラブ参加率 40%増	年度)
c 市大会、府大会等での成績 向上   「部の大会成績向上   「福成の部において優秀賞を受賞 しました。(平成 30 年度) にれらの功績により、他の運動部、文化クラブにおいても生徒達の毎日の練習に対する取組が変わってきています。   (1)保護者とのコミュニケーション緊密を化によるきめ細かな生徒指導   かな生徒指導   かな生徒指導   放射性   放射性	活動			1・2 年生 50%増	文化系クラブでは、吹奏楽部が大
向上   部の大会成績向上   しました。(平成 30 年度)				3 年生 30%増	阪府吹奏楽コンクール中地区大会
これらの功績により、他の運動部、 文化クラブにおいても生徒達の毎日の練習に対する取組が変わってきています。   1)保護者とのコミコーケーション緊見直しにより、生徒、保護者と密化によるきめ細かな生徒指導			c 市大会、府大会等での成績	c軽音楽部、吹奏楽部、陸上	小編成の部において優秀賞を受賞
文化クラブにおいても生徒達の毎日の練習に対する取組が変わってきています。   (1)保護者とのコミュニケーション緊   現職との一体教育   中期:6・11月   回数:2回   地位によるきめ細かな生徒指導   地位により、生徒、保護者との情報共有教科   地位によるきが、な生徒指導   地位により、生徒、保護者との情報は有数科   地位による主動に関するとの情報は、10人命の尊さに対する。   (1)人命の尊さに対する意識高揚   理教育の実施   地震非難訓練の実施   大会を管理   地震非難訓練の実施   大会を管理   地震非難訓練の実施   大会をである意識高揚   大会をであるを表します。20%   大会を表します。20%   大会を表しまする。20%   大会を表します。20%   大会を表します			向上	部の大会成績向上	しました。(平成 30 年度)
日の練習に対する取組が変わってきています。					これらの功績により、他の運動部、
1					文化クラブにおいても生徒達の毎
(1)保護者とのコミ   a 保護者懇談週間開催時期の   a 保護者懇談週間時期・回数   保護者懇談会は、年 2 回実施。   中期:6・11 月   回数:2 回   かな生徒指導   かな生徒指導   b 保護者との情報共有教科   b Web でお知らせ開封率   る。   Web でお知らせは単なる一方通行の連絡に留まらず、双方向での情報交換が出来るように IT システム強化を検討する。   (1)人命の尊さに対する意識高揚   理教育の実施   車教育の実施   本 2 回実施   世報に留まらず、双方向での情報交換が出来るように IT システム強化を検討する。   (1)人命の尊さに対する意識高揚   車教育の実施   本 2 回実施   世報・ 2 回実施   世報・ 2 回実施   大 3 の 4 を 4 を 5 を 5 を 5 を 6 を 5 を 6 を 6 を 7 の実施   上 2 回実施   大 3 の 4 を 5 を 5 を 6 を 6 を 7 の実施   上 3 を 6 を 7 の実施   上 3 の 4 を 7 の 5 の実施   上 3 の 4 を 7 の 5 の実施   上 5 を 7 の実施   上 5 を 6 を 7 の実施   上 5 を 7 の学が   1 回 5 を 7 の学が   日 5 を 7 のが   日 5 を 7					日の練習に対する取組が変わって
保護者との					きています。
- 体教育       b 保護者との情報共有教科       b Web でお知らせ開封率       る。         80%以上       Web でお知らせは単なる一方通行の連絡に留まらず、双方向での情報交換が出来るように IT システム強化を検討する。         6 (1)人命の尊さに対する。       a 非難訓練実施による危機管理数育の実施       本 也震非難訓練の実施年2回実施出席率90%日本2回実施日本2回実施出席率90%日本2回実施日本2回実施出席率90%日本2回実施日本2回来2回実施日本2回実施日本2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2		(1)保護者とのコミ	a 保護者懇談週間開催時期の	a 保護者懇談週間時期·回数	保護者懇談会は、年2回実施。
- 体教育       b 保護者との情報共有教科       b Web でお知らせ開封率       る。         80%以上       Web でお知らせは単なる一方通行の連絡に留まらず、双方向での情報交換が出来るように IT システム強化を検討する。         6 (1)人命の尊さに対する。       a 非難訓練実施による危機管理数育の実施       本 也震非難訓練の実施年2回実施出席率90%日本2回実施日本2回実施出席率90%日本2回実施日本2回実施出席率90%日本2回実施日本2回来2回実施日本2回実施日本2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2	保護	ュニケーション緊	見直しにより、生徒、保護者と	時期:6・11 月	Web でお知らせ開封率は 80%を
- 体教育       b 保護者との情報共有教科       b Web でお知らせ開封率       る。         80%以上       Web でお知らせは単なる一方通行の連絡に留まらず、双方向での情報交換が出来るように IT システム強化を検討する。         6 (1)人命の尊さに対する。       a 非難訓練実施による危機管理数育の実施       本 也震非難訓練の実施年2回実施出席率90%日本2回実施日本2回実施出席率90%日本2回実施日本2回実施出席率90%日本2回実施日本2回来2回実施日本2回実施日本2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2回来2	者と	密化によるきめ細	の懇談内容充実	回数:2回	めざしたが 70%台に留まってい
6 安全管理       (1)人命の尊さに対 する意識高揚       a 非難訓練実施による危機管 理教育の実施       a 地震非難訓練の実施 年 2 回実施 出席率 90%       校舎、コンクリート外壁等の地震 発生時に落下、倒壊懸念される箇 所の補修工事を開始した。全ての 工事終了は平成 30 年度予定。 AED を使用した救命訓練を教員 で実施(出席率 70%)。引続き 1 回		かな生徒指導	b 保護者との情報共有教科	b Web でお知らせ開封率	る。
6 安全管理       (1)人命の尊さに対 する意識高揚       a 非難訓練実施による危機管 理教育の実施       a 地震非難訓練の実施 年 2 回実施 出席率 90%       校舎、コンクリート外壁等の地震 発生時に落下、倒壊懸念される箇 所の補修工事を開始した。全ての 工事終了は平成 30 年度予定。 AED を使用した救命訓練を教員 で実施(出席率 70%)。引続き 1 回	体 教			80%以上	Webでお知らせは単なる一方通行
6 安全管理       (1)人命の尊さに対 する意識高揚       a 非難訓練実施による危機管 理教育の実施       a 地震非難訓練の実施 	育				の連絡に留まらず、双方向での情
6 (1)人命の尊さに対 a 非難訓練実施による危機管 理教育の実施 理教育の実施					報交換が出来るように IT システ
安全管理       する意識高揚       理教育の実施       年2回実施 出席率90%       発生時に落下、倒壊懸念される箇 所の補修工事を開始した。全ての 工事終了は平成30年度予定。         人命救助教育の実施       育の実施 出席率90%       工事終了は平成30年度予定。         AED を使用した救命訓練を教員で実施(出席率70%)。引続き1回					ム強化を検討する。
人命救助教育の実施       育の実施 出席率 90%       工事終了は平成 30 年度予定。         AED を使用した救命訓練を教員で実施(出席率 70%)。引続き 1 回		(1)人命の尊さに対	a 非難訓練実施による危機管	a 地震非難訓練の実施	校舎、コンクリート外壁等の地震
人命救助教育の実施       育の実施 出席率 90%       工事終了は平成 30 年度予定。         AED を使用した救命訓練を教員で実施(出席率 70%)。引続き 1 回	安全	する意識高揚	理教育の実施	年 2 回実施 出席率 90%	発生時に落下、倒壊懸念される箇
AED を使用した救命訓練を教員で実施(出席率 70%)。引続き1回	管理		b 救急救命講習の実施による	b AED を使った救急救命教	所の補修工事を開始した。全ての
で実施(出席率 70%)。引続き 1 回			人命救助教育の実施	育の実施 出席率 90%	工事終了は平成 30 年度予定。
					AED を使用した救命訓練を教員
/年以上の実施を検討する。					で実施(出席率 70%)。引続き1回
					/年以上の実施を検討する。

## Ⅳ 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
С	4年制大学への進学者が73名、卒業生の34%と前年に比べ	平成 26 年度から継続してきた基礎学力の定着を引き続き目
	12%増加したことは評価できるが、関西有名私立大学に合	指してゆく。
	格できなかったことが残念である。	生活指導は、全体への啓蒙活動とは別に、個々の生徒に対
	一方、遅刻回数は徐々に減ってきてはいるが、依然として平	するきめ細かな指導を徹底する。
	均遅刻回数は高い状況である。	

# V 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方策
基礎学力の定着	各生徒の基礎学力に応じた学び直し学習は評価で	各生徒の学力に応じたきめ細やかな学習指導をお願
	きます。	いしたい。

進路指導	4 年制大学への進学率が上がってきたことは大きな	先輩の成功事例を後輩に伝えてゆく等、新たな校風
	成果と思います。	を築いていくようお願いします。
	1 年生の時からから苦手教科対策、受験教科対策な	
	どを更にお願いします。	
生徒指導	遅刻強化週間、服装強化週間を設定しメリハリのある	昨年と同様、一部の生徒に遅刻が偏っている感があ
	生徒指導を行い、遅刻数は激減してきたと思う。	<b>వ</b> .
		罰則の強化だけでは生活習慣の改善には結びつか
		ないと思われる。生徒個別のフォローアップをお願い
		する。
生徒会・クラブ活動	軟式野球部、吹奏楽部は地区大会で優秀な成績を	スポーツ専攻科の新設が運動系クラブの活躍を生ん
	挙げることが出来た。先生の熱心なご指導に感謝しま	で行くと思います。活気ある校風の醸成に期待してい
	す。	ます。
保護者との一体教育	「Web でお知らせ」は連絡手段としてしか利用されて	「Web でお知らせ」を有効活用し、学校・保護者間で
	いないと思う。	の双方向コミュニケーションツールとして活用してい
		けば良いと思います。
危機管理	災害対策、避難マニュアルなどは学校、生徒にも充	不審者侵入対策、防犯対策について施錠管理に留
	分周知されてきたと思う。	まらず、地域をあげた危機管理強化活動を推進して
		頂きたい。
綜合評価	入学者数が減少し学校自体に活気が無くなった頃の	カリキュラムの定着化、教員の定着化を図り、安定し
	状況は終了し、生徒数の増加と共に生徒、教員の振	た環境で学習できる体制を確保して頂きたい。
	る舞いも明るくなったと思います。	
	教職員の丁寧な指導に感謝いたします。	

## 学校関係者評価委員会構成

評価委員長 :あべの翔学高等学校PTA会長

評価委員 :あべの翔学高等学校呉竹同窓会会長

評価委員 : 奈良佐保短期大学キャリア支援センター長